

きらめくような輝きを放つ超越したハーモニーで、多くの人びとを魅了し、ルネサンスの教会音楽を世界に広めてきたタリス・スコラーズ。

創立者で指揮者ピーター・フィリップスの抜群の眼力により、

その時々でメンバーを抜擢し結成40周年を超えてなお、進化を続けているスーパー・アカペラ合唱団です。

現代社会における喧騒の渦とは一線を隔す、ヨーロッパのルネサンス時代の教会音楽。

今回は、生誕450年を迎えるモンテヴェルディの「無伴奏による4声のミサ」と、

タリス・スコラーズがもっとも得意としているシステーナ礼拝堂の秘曲、教会音楽の不朽の名作アレグリの「ミゼレーレ」。そして、英国ルネサンス期を代表する作曲家でタリス・スコラーズの名前の由来となったトマス・タリスのミサ曲とバードのモテットを披露します。

タリス・スコラーズによるアレグリの「ミゼレーレ」は何度聴いても、本当に凄い。

聴き方によっては、音楽と絵画という別のジャンルですが、ローマ、パチカン市国にある

システーナ礼拝堂のミ克蘭ジェロが描いた有名な天井画と相通じる美しい色彩や立体感、気迫が感じられようか。

まるで礼拝堂が空間移動してきたようと思ったら大袈裟でしょうか。

そしてタリス・スコラーズが日本で初披露する、生誕450年を迎える大作曲家モンテヴェルディの作品、

ルネサンスからバロックへの過渡期を生きた巨匠の力強く美しいミサ曲です。

タリス・スコラーズの演奏にモンテヴェルディが30年間楽長を務めた

ヴェネツィアのサン・マルコ大聖堂の大伽藍に瞬間移動できるような体験を一つ一つ期待してしまおうではありませんか。

タリス・スコラーズの圧倒的な声の美しさに癒されながら、400年の時と国境を超える音楽の旅に出かけませんか。

ピーター・フィリップス Peter Phillips



©Albert Roesenburg

ルネサンスのポリフォニーの研究と演奏の第一人者として高い評価を受け、世界中でポリフォニーへの関心を高めるのに大きく貢献している。

コンサート、レコーディング、楽譜の校訂出版、コラムの執筆など、ピーター・フィリップスの精力的な活動により、ルネサンス音楽はクラシック音楽の主流の一つと認められるに至った。世界各地でマスタークラスや合唱ワークショップを開催し、2014年から毎年ロンドン国際アカペラ合唱コンクールを開催している。日本でも1997年第49回日本合唱コンクール全国大会の審査員、2008年～10年、16年に声楽アンサンブルコンテスト全国大会の審査員を務めている。

タリス・スコラーズ The Tallis Scholars



©Eric Richmond

1973年にピーター・フィリップスにより創立され、数多くのレコーディングとコンサートを通して、ルネサンス教会音楽においては世界最高の合唱団の地位を占めるに至る。教会音楽の奥深さと多様性に対するその真摯な探求は世界中の聴衆の共感を得ている。フィリップスは歌手たちとともに、確かなチューニングと音の混合によって、純粹で透明な響きを創り出そうと熱心してき

た。その響きこそがルネサンス音楽の演奏に最も適していると感じているからである。そこに立ち現れる音の美、それがタリス・スコラーズの名声を不動のものにしている。

年間約70回の演奏を教会で、あるいはコンサート・ホールで行っている。1994年4月、ミ克蘭ジェロのフレスコ画修復完成を祝う記念行事の最後を飾って、システーナ礼拝堂で演奏する光栄に浴した。1998年、ロンドンのナショナル・ギャラリーでの結成25周年記念公演は、ジョン・タヴァナーの新曲の初演でスティンクのナレーションつきというユニークなものであった。さらにニューヨークでのポール・マッカートニーとの共演も話題を呼んだ。2013年には結成40周年記念を祝って、G. ジャクソンとE. ウィテナー、2人の現代作曲家に新作を委嘱。16カ国99公演におよぶワールドツアーとスペシャルCDをリリース。同年3月ロンドンのセント・ポール大聖堂でタリス作曲40声のモテットを披露。またタヴァナー「ミサ・グロリア・アディティビ」シリーズ]を新たにリリース、6週連続で英国のクラシック・アルバム・チャートで1位となったほか、アルヴォ・ペルトの作品集「ティンティナブリ」はUKスペシャルスト・クラシカル・チャート第1位に輝く。2015年9月ロンドンの聖ジョージズ・スクエアで、2000回目のコンサートを祝った。最新ディスクはスコスカン・デ・ゾラの「さいごのミサ」。16度目の来日。

来日予定メンバー

指揮 / **ピーター・フィリップス**
Director / Peter Phillips

■ソプラノ Soprano
エイミー・ハワース
Amy Haworth

■エミリー・アトキンソン
Emily Atkinson

■シャーロット・アシュリー
Charlotte Ashley

■エロイス・アーヴィング
Eloise Irving

■アルト Alto
キャロライン・トレヴァー
Caroline Trevor

■エドワード・マクマラン
Edward McMullan

■テノール Tenor
サイモン・ウォール
Simon Wall

■ガイ・カッティング
Guy Cutting

■バス Bass
ティム・スコット・ホイットリー
Tim Scott Whiteley

■ロバート・マクドナルド
Robert Macdonald

※アーティスト写真は、来日するメンバーとは異なりませす。



Sapporo Concert Hall

札幌コンサートホール *Kqtara*

〒064-8649 札幌市中央区中島公園1-15 TEL 011-520-2000

この事業は札幌コンサートホールが主催しています



Kqtara モバイルサイト

Kitara 主催公演のチケットが、
こちらからも購入できます。

交通のご案内

- 地下鉄南北線「中島公園駅」3番出口から徒歩約7分
- 地下鉄南北線「観平橋駅」1番出口から徒歩約7分
- 市電「中島公園通」下車 徒歩約4分

- ※やむを得ない事情により、会場が変更になる場合がありますのでご了承ください。
- ※未成年のご入場はご遠慮ください。
- ※託物サービス(有料・予約制)をご利用ください。
- ※駐車場の無料シャトルサービス TEL 011-201-0511
- ※お車のご来場はご遠慮ください。地下鉄・市電をご利用ください。

札幌コンサートホール公式 Twitter @Kitara_sapporo



Kqtara Club 会員募集中 ご入会申し込みは TEL 011-520-2580